

## 岡南こども園 自己評価報告書（令和3年度）

<評価> できている：3 努力が必要：1

評価項目		平均評価	振り返りと課題
<b>1 基本項目</b>			
1	保育の基本(教育保育要領)を理解している。	2.2	○保育園から認定こども園に変わってから2年目であるが、今後も「教育・保育要領」の一層の理解が必要である。 ○年度初めに園の教育・保育の目的・理念・方針等を十分周知し、それを基に取組の方向性を合わせた創意・工夫を行いたい。 ○保育雑誌や専門書などをとおして、より子どもたちの発達や興味、季節に合わせた教育・保育に取り組みたい。
2	園の理念や保育目標を理解している。	2.9	
3	園の全体的な計画を理解している。	2.4	
4	園の理念や方針に基づき、指導計画を立てている。	2.7	
5	定期的に自己評価をして、保育の改善に努めている。	2.6	
6	保育の計画や実践に向けて、創意工夫に努めている。	2.3	
7	自分の保育の良さと課題を認識している。	2.6	
8	すぐにでも取り組まないといけない課題の改善に努力した。	2.4	
9	保育雑誌や専門書などを読んで保育の情報を集めている。	2.1	
10	園の会議などで子どもの利益を一番に考えて発信している。	2.4	
11	業務上知り得た個人情報などの秘密を守っている。	2.9	
<b>2 子どもとのかかわり</b>			
<b>【生命の保持・心の安定】</b>			○コロナ禍での感染症対策のため、他のクラスや異年齢の子どもとの交流が制限され、また地域の方や高齢者の方と関わるような行事もほとんど実施することができなかった。来年度は、感染状況が好転し、機会を増やすことができることを願っている。 ○子どもたちは、「ありがとう」という言葉を場面によって適切に言えるように成長している。今後も「ありがとう」や優しい言葉を言える子どもに育てたい。 ○急かす言葉や制止の言葉を使わずに、今後はこれまで以上に子どもの考えを大切に、様子をよく見て対応したい。 ○複数の子どもからの求めがあった時に、他の子を待たせたり、声をかけられずに我慢させてしまう子が出てしまう。常に子どもの気持ちを考慮して対応していきたい。 ○丁寧な言葉がけをしていると、子どもたちも自然に優しい言葉を使うようになっていく。笑顔と優しさ、優しい丁寧な言葉遣いで子どもたちに接し、心の育ちを大切にしたい。保育者が子どもの手本となるよう自分の行動に気を配りたい。
12	ひとりひとりの発達を理解している。	2.6	
13	ひとりひとりの生理的欲求が満たされるように配慮している。	2.7	
14	登園時に優しく声をかけるなど、状況に応じて対応している。	3.0	
15	わかりやすい言葉で穏やかに話かけている。	2.9	
16	子どもが何を求めているのか、常に配慮して接している。	2.9	
17	子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。	2.9	
18	制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人一人に合わせた対応をしている。	2.2	
19	「あとで」などと待たせず、なるべくその場で対応している。	2.0	
<b>【健康・安全】</b>			
20	食事や排せつなどの生活に必要な活動に自ら取り組めるように配慮している。	2.9	
21	食事やおやつを楽しめる雰囲気づくりをしている。	2.9	
22	野菜を育てたり調理をしてくれた人への感謝の気持ちや命を大切にする気持ちを育んだりできるように働きかけている。	2.9	
23	好き嫌いや食べ残しを直すために過度に叱らないよう配慮している。	3.0	
24	トイレの後や食前の手洗い等、清潔にする習慣が身につくよう働きかけている。	3.0	
25	体を動かすことを楽しむように働きかけている。	2.7	
26	危険を意識して行動するよう、安全について指導している。	2.8	
<b>【人とのかかわり】</b>			
27	友だちとの関わりで、友だちの良さや大切さに気付けるようにしている。	2.7	
28	子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように配慮している。	2.7	
29	順番を守るなどのルールが身につくように配慮している。	2.9	
30	活動を通して、共同の遊具や道具を大事にすることを体験できるようにしている。	2.7	
31	人と心が通じ合う喜びを伝えるように接している。	2.9	
32	異年齢の子どもと関わることを大切にしている。	2.4	
33	外国の人や文化の違う人に親しみを持つ機会を作っている。	1.2	

34	地域の人や高齢者と親しむ機会を作っている。	1.3	
35	家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育てている。	2.7	
<b>【表現活動】</b>			
36	美しいものに感動したり、イメージを広げたりする機会を作っている。	2.6	
37	感じたことや考えたことを自由に表現する機会を作っている。	2.3	
38	子どもが自由に歌ったり踊ったりすることを楽しめるようにしている。	2.9	
39	様々な素材や用具と接し、自分で工夫して遊べるようにしている。	2.1	
40	子どもの作品を大切に扱い、工夫して飾るなどしている。	2.9	
<b>【言葉】</b>			
41	心のこもった挨拶をしている。	3.0	
42	正しく丁寧な言葉で話かけている。	2.8	
43	「ありがとう」や「ごめんなさい」などの言葉を、相手の気持ちを大切に指し導している。	2.9	
44	わからないことをこどもが聞けるなど、安心して話ができる雰囲気を作っている。	2.8	
45	子どもが人前で話をする時に、相手にわかりやすく話せるよう援助している。	2.7	
46	読み聞かせの時に、言葉の楽しさなどが伝わるように配慮している。	2.9	
<b>3 保育環境</b>			
<b>【環境作り～心地よい生活の場】</b>			<p>○日々の活動が同じことの繰り返しにならないようにするとともに、子どもたちが興味関心を持っていることに目を向けて日々の活動に取り入れていきたい。</p> <p>○日々の遊びで、おもちゃを保育者が決めることが多い。子どもが選んで好きな遊びができるような環境作りを行いたい。</p> <p>○伝統的な行事が少なくなっているが、伝統的な習慣や遊具などを再評価し、適切かつ効果的に教育・保育に取り入れていきたい。</p> <p>○公共機関の利用は難しいが、お散歩の中で、鉄道の線路を眺めながら、乗り物や地域などへの興味・関心を高めている。</p> <p>○安全点検は、屋内・屋外ともに随時あるいは月1回、複数の保育者で行っており、その都度改善に取り組んでいる。</p>
47	常に公平で温かい態度や言葉づかいで子どもに接し、信頼関係を築くようにしている。	3.0	
48	ひとりひとりが安心して過ごせる環境作りを心がけている。	2.9	
49	保育室の温度や湿度、通風に配慮している。	2.9	
50	適切な声の大きさで接している。	2.9	
51	好きな遊びができる環境が整えられている。	2.2	
52	自然との触れ合いを大切に心が豊かになるよう配慮している。	2.5	
53	トイレや手洗い場を清潔に保っている。	3.0	
54	遊具、おもちゃ、砂場などの点検、消毒を定期的に行っている。	2.8	
55	必要な場所に転倒防止策をしている。	2.7	
56	不審者などの侵入を防ぐ対策をしている。	2.6	
<b>【環境づくり～成長を促す】</b>			
57	発達に合ったおもちゃや遊具を用意している。	2.8	
58	子どもの動線を考えて、遊具や用具を配置している。	2.4	
59	子どもが身近な動植物に触れ合う機会を作っている。	2.5	
60	ひとりひとりの興味に合わせて好きな遊びが出来るようにしている。	2.6	
61	園外保育で、公共機関などを利用し地域に興味を持てるようにしている。	1.4	
62	伝統的な行事を生活の中に取り入れている。	2.5	
63	日常的な生活や環境の中で、標識や文字に関心を持つ工夫をしている。	2.3	

4 保護者とのかかわり		
【情報の発信と受信】		○家庭の養育方針を聞くことが少ない。園での教育・保育の方針と家庭での方針をともによく理解し、一人一人の子どもに合った支援を行いたい。 ○保護者の悩みや困りごとに丁寧に寄り添い、信頼関係を構築する中で、保護者と子どもが安心と充実を得られるような園をつくっていききたい。
64	保育の方針や内容を保護者にわかりやすく説明している。 2.0	
65	個々の家庭の養育方針を理解している。 2.1	
66	必要に応じて、保護者との個別面談を行っている。 2.4	
67	緊急時は電話などで迅速な連絡を行っている。 2.9	
【支援】		
68	家庭と協力して、子どもが健康的な生活リズムを見にかけられるようにしている。 2.8	
69	子どもの育ちの過程を伝え合い、共通理解に努めている。 2.8	
70	悩みや不安を話せるように心を開いて対応している。 2.9	
71	保護者の保育参加等、子育てについて共通理解を得るための機会を設けている。 2.5	
【マナー】		
72	すべての保護者に対して、親しみを込めた挨拶や会話をするように心がけている。 3.0	
73	丁寧な言葉や敬語を使っている。 2.9	
74	子どもの体調不良等の連絡時の伝達方法に配慮している。 2.8	
75	苦情や要望には、謙虚に話を聞いて対応している。 2.9	
5 ほかの保育者とのかかわり		
【良好な関係と協働性】		○保育者同士の連携、協力体制の構築の重要性を強く認識している。 ○行事の内容の把握について、統一した保護者対応のためにも、全職員が共通理解しておく必要がある。 ○自己評価結果のフィードバックを大切に、職員間での対話なども活用しながら、できるところから積極的に改善に取り組んでいきたい。 ○各職員が受講した研修の内容を職員間で共有し、教育・保育に効果的に活かしていきたい。
76	園長、副園長、主幹、同僚を尊重し、良好な関係を築いている。 3.0	
77	園長、副園長、主幹、同僚の言葉を素直な気持ちで受け入れている。 3.0	
78	報告や連絡、相談をするよう心がけている。 3.0	
79	互いの状況や役割を理解し、協力や援助をしている。 2.9	
80	園が目指す目標に向けて互いに協力している。 2.9	
【向上】		◇研修 ・年間研修回数 ：外部研修35回、内部研修15回 ・受講人数（延べ）：86名（外部研修） ・その他、キャリアアップ研修等受講
81	自己評価をもとに、職員間で保育内容に対話を重ねている。 2.1	
82	保育の良さや課題を話し合っって明確にし、見直しや改善につなげている。 2.4	
83	研修などを通して、互いに知識や技術の習得を図っている。 2.7	
84	子育て支援や地域開放のあり方について、職員間で話し合っている。 1.3	